

日本ミシェル・アンリ哲学会

第七回研究大会 プログラム

「感情」の哲学者として知られるアンリにおいて、人間を「自己」として規定するのは表象する理性ではなく内在としての「情感性」であり、そうした自己の存在こそ真の實在の名に値します。こうした見方は西洋哲学史のなかでも注目すべきものですが、二〇世紀において感情に重要な意味を認めたもう一人の哲学者としてハイデガーを忘れることはできません。ハイデガーもまた、人間存在を根本的に規定する「気分」について深く論及しています。アンリはハイデガーを批判しますが、その批判の当否を超えて、この二人の哲学者が交叉しあう地点に、「感情」という問題を了解し直す新たな手段を見いだすことはできないでしょうか。今大会においては、このような問題意識のもと、両哲学者の一方を主要な研究対象としつつも他方をも視野に収めて思考されている三名の研究者をお招きし、シンポジウムを開催いたします。

また、シンポジウムに先立っては、ヴァンサン・ジロー氏による講演（仏語）のほか、研究者による二つの研究発表を行います。ジロー氏は中世哲学および現象学を専門としており、今回は、アンリの現象学に即して、美学＝感性論を第一哲学として理解する試みを展開していただきます。また、研究発表の一つはアンリにおけるカフカ理解に注目したもの、もう一つはアンリとデリダとの間の実現しえたかもしれない対話を探るもので、現代哲学に関心を持つ聴き手にとってはとても刺激的な発表になるものと思われまます。

期日：2015年6月13日（土）

会場：学習院大学 北二号館(文学部棟)10階 大会議室

【研究発表】

10:30～11:20

佐藤勇一（立命館大学）

「ミシェル・アンリ哲学における宗教思想家としてのカフカ」

11:20～12:10

米虫正巳（関西学院大学）

「内在の現象学の可能性と不可能性——出会い損なったアンリとデリダの遅ればせの対話」

12:10～13:10 昼食

13:10～14:00 総会

【講演】

14:10～15:10

Vincent Giraud（京都大学白眉センター）

« L'esthétique comme philosophie première »

【ワークショップ】

15:20～18:20

テーマ：「ハイデガーとアンリ——感情の哲学という観点から」

パネラー

服部 敬弘（日本学術振興会特別研究員・京都大学）

「アンリによるハイデガー批判再考——感情概念の射程と限界」

景山 洋平（日本学術振興会特別研究員・東京大学）

「本質の言語と生命の言語——ハイデガーのカント解釈の到達点とハイデガー・アンリの後期言語論」

古荘真敬（東京大学）

「感情と言語——ハイデガーとアンリのあいだで。基礎的考察の試み。（仮）」

司会

川瀬雅也（鳥根大学）

日本ミシェル・アンリ哲学会事務局

〒690-8504 松江市西川津町1060 鳥根大学教育学部 川瀬研究室内

Tel/Fax : 0852-32-6284 E-mail : kawase@edu.shimane-u.ac.jp

ホームページ : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~michelhenry/>